

わが国からの 新薬開発を目指して

第2回がん新薬開発合同シンポジウム

医療イノベーションを どう実現するか

日時:

平成24(2012)年

11月16日 金

9:00-16:50

会場:

東京ステーション
コンファレンス

5F 503A-D 会議室

<http://www.tstc.jp/access/>

● 参加申込

抗悪性腫瘍薬開発フォーラム

ホームページにて9月中旬より受付

<http://atdd-frm.umin.jp/>

● 定員になり次第
締め切りとさせていただきます。

主催 ● 厚生労働省「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」
● がん研究開発費「がん治療の早期開発試験
およびその研究体制確立に関する研究」班
● 文部科学省科学研究費
「がん支援・化学療法基盤支援活動」班

後援 ● 抗悪性腫瘍薬開発フォーラム

プログラム

司会:

大津 敦 国立がん研究センター東病院 臨床開発センター長

矢守 隆夫 医薬品医療機器総合機構 審査センター長
がん研究会 がん化学療法センター

■ 開会の言葉 大津 敦

1 わが国における新薬開発の国家戦略 (9:05-12:40)

- 1 医療イノベーション5か年戦略
内閣官房 医療イノベーション推進室 参事官 藤本 康二
- 2 文科省領域における新規シーズ開発の国家戦略
がん研究会 がん研究所 所長 野田 哲生
- 3 新薬開発に向けたわが国での産官学連携のあり方
-1 アカデミアの立場から
愛知医科大学医学部 腫瘍免疫寄附講座 教授 上田 龍三
-2 企業の立場から
中外製薬株式会社 大友 俊彦
-3 規制当局の立場から
医薬品医療機器総合機構 審査センター長
がん研究会 がん化学療法センター 矢守 隆夫
- 4 日本版コンベンディア制度の構築
国立がん研究センター 理事長 堀田 知光
- 5 希少疾患に対する新薬開発: 基盤研の取り組み
医薬基盤研究所 研究振興部長 武井 貞治
- 6 早期開発拠点整備に向けた厚労省の取り組み
厚生労働省 医政局 研究開発振興課 佐原 康之
- 7 早期探索的拠点整備事業での新薬開発の取り組み
国立がん研究センター東病院 臨床開発センター長 大津 敦

2 ポストゲノム時代の新薬開発を考える (13:50-16:45)

- 1 世界における抗がん剤開発の現状
長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部 教授 水上 民夫
- 2 個別化医療とがんの臨床試験: NCIの考え方
米国 National Cancer Institute CTEP 武部 直子
- 3 わが国からの標的分子発見およびシーズ開発の問題点
自治医科大学 ゲノム機能研究部 教授
東京大学大学院 ゲノム医学講座 特任教授 間野 博行
- 4 企業側からみたポストゲノム時代の開発治験の考え方
ノバルティス ファーマ株式会社 都賀 稚香
- 5 コンパニオン診断薬開発を巡る諸問題
ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 田澤 義明
- 6 アカデミア施設での個別化医療体制への取り組み
国立がん研究センター東病院 消化管内科 医長 吉野 孝之
- 7 個別化医療時代の
レギュラトリーサイエンス確立に向けた国家の取り組み
厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 宮田 俊男

■ 閉会の言葉 矢守 隆夫

* 内容・時間は一部変更になる場合があります。最新のプログラムは抗悪性腫瘍薬開発フォーラムホームページをご覧ください。